

千 松 小



学校だより



2025年

3月号

卒業生の皆さんへ

校 長 山崎 眞弘

六年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

千松小学校で過ごした六年間を振り返った時、今、皆さんの心の中にはどんな事が思い出されますか。期待と不安で胸をいっぱいにして、入学した日から、日々心も体も成長し続けてきました。最高学年として過ごしたこの一年間は今まで以上に様々な事に挑戦し、やり遂げるという経験を積むことで、成長できているという自分を実感できた人も多いのではないのでしょうか。

みなさんは、千松小学校のリーダーとして、運動会などの学校行事はもちろん、毎日の学校生活でも下級生をやさしくリードする頼もしい最上級生でした。みなさんの最高学年としての毎日の活動やリーダーシップのおかげで今の千松小学校があると思っています。

与えられた物事に挑戦し、しっかりとやり遂げてきたことに自信を持って欲しいと思います。これから始まる中学校での新たな生活に期待だけではなく、不安も感じているかも知れませんが、どうか恐れず、挑戦を続けていってください。どんな小さな事でも「なりたい自分」の姿を思い描いて一歩ずつ努力できる人であって欲しいと思います。例え失敗したとしても、力いっぱい取り組んだ経験こそがこれからの人生の大きな支えになります。

また小学校生活での成長は自分だけの力ではなく、お家の方や友だち、地域の方々、先生方の支えがあってこそということを忘れず、新たに始まる中学校生活でもどうぞがんばってください。

皆さんの更なる成長を心から応援しています。

キャリア教育とは



「キャリア教育」というと、子ども達に将来の夢をもたせることや職場体験のイメージでとらえられがちです。しかし、いま学校現場で取り組んでいるキャリア教育では「いかに生きるか」を考えさせ、それを実現するために必要な力を育てることを目指しています。

(徳島県の目指すキャリア教育)

夢や希望に向かってチャレンジし、社会の一員として、ともに支え合い、ふるさと徳島に愛着と誇りを持つ人を育むとともに、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力・態度を培うことを通して、キャリア発達を促す教育

令和2年4月から徳島市キャリア・パスポートを作成しております。キャリア・パスポートとは、子どもたちが、小学校から高等学校までの12年間における自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう学習過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積していくものです。

年度末には、1年間の学習や生活について振り返り自己評価を記入し、キャリア・パスポートに蓄積して次学年へ引き継いでいます。振り返りの内容は、「この一年どのくらいできたか〇をつけよう」というような項目に丸をつけるものや、次学年で頑張りたいことを記述しています。キャリア・パスポートを活用して、今後の学習や生活への意欲につなげる活動を行っています。

～小学校における外国語教育～



小学校における外国語教育は3年生から始まり、3・4年生では「外国語活動」、5・6年生では教科「外国語科」として設定されています。3・4年生の「外国語活動」では、「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通して、また5・6年生の「外国語科」では、「聞くこと」「話すこと」を中心にしながら、「読むこと」「書くこと」の活動も行い、コミュニケーションの力を身に付けていきます。教師から知識を一方向的に教え、それを覚えていくといった内容の授業ではなく、子どもたちが「聞きたい」「言いたい」という目的や場面などを設定して、子どもたちの本当の気持ちを伝え合ったり、発表したりすることを大切にした授業を進めています。例えば、5年生においては、子どもたちが実際にニュージーランドの小学校と交流をしました。自分たちが住んでいる徳島のすてきなところをわかってもらうために、班で協力して伝わる言い方を英語で考え、自分たちの言葉で伝え合ったというようなことが挙げられます。

ところで、外国語教育はなぜ必要なのでしょう？「どうして英語を勉強しないといけないの？」と思っている子どもたちもいるかもしれません。よく英語は世界の共通言語といわれますが、その意味は計り知れません。英語を話せると、英語圏だけではなく、世界中の人と話せるようになるのです。今の子どもたちが大人になるころには、世界との距離はさらに近くなるでしょう。職種に関係なく英語でのやり取りが日常的に求められたり、英語で発信される情報をそのまま読んだりする機会があるかもしれません。何よりも、英語が話せると世界中を旅したり、世界中に友達を作ったり、そこから視野が広がったりします。小学校のうちに英語に対する「好き」や「楽しい」といった子どもたちの前向きな気持ちを醸成し、その後も続いていく外国語教育のよいスタートが切られればと願っています。

